

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭61-148178

⑪ Int. Cl.<sup>4</sup>C 07 D 417/04  
417/14

識別記号

庁内整理番号

7431-4C  
7431-4C※

⑬ 公開 昭和61年(1986)7月5日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全19頁)

⑭ 発明の名称 チエニルチアゾール化合物

⑮ 特 願 昭60-261677

⑯ 出 願 昭60(1985)11月21日

優先権主張 ⑰ 1984年11月22日 ⑱ 世界知的所有権機関(WO) ⑲ PCT/JP84/00562

⑳ 発 明 者 川 北 武 志 中津市中央町1-7-8  
 ㉑ 発 明 者 佐 野 光 春 福岡県築上郡新吉富村八ツ並276  
 ㉒ 発 明 者 安 本 光 由 福岡県築上郡大平村土佐井763-1  
 ㉓ 発 明 者 大 菅 邦 男 中津市東浜今新地1番通774-55  
 ㉔ 発 明 者 芳 賀 慶 一 郎 中津市中央町1-10-76  
 ㉕ 出 願 人 吉 富 製 菓 株 式 会 社 大阪市東区平野町3丁目35番地  
 ㉖ 代 理 人 弁 理 士 高 宮 城 勝

最終頁に続く

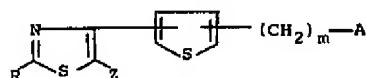
## 明 細 書

## 1. 発明の名称

チエニルチアゾール化合物

## 2. 特許請求の範囲

一般式



で表わされるチエニルチアゾール化合物またはその酸付加塩。

上記式中、各記号は次のように定義される。

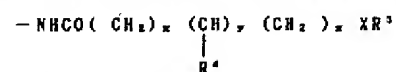
R はアミノ、グアニジノ、モノまたはジアルキルアミノ、アルケニルアミノ、フェニル核上にハロゲン、アルキル、トリフルオロメチル、アルコキシ、ニトロまたはアミノから選ばれる少なくとも1個の置換基を有していてもよいモノまたはジフェニルアミノまたはアシルアミノを、

A はアミノ、モノまたはジアルキルアミノ、環

状アミノ、アルカノイルアミノ、式



で表わされる基(ここで、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>はそれぞれ水素またはアルキルを示すか、または隣接する窒素原子とともに結合して複素環を形成する基を示す。n は0または1~3の整数を示す。)、式



で表わされる基(ここで、R<sup>3</sup>は水素、アルキル、アルカノイル、モノまたはジアルキルアミノアルキルあるいは芳香族(複素)環上に置換基としてハロゲン、アミノ、ニトロ、アルキル、アルコキシ、モノまたはジアルキルアミノ、モノまたはジアルキルアミノアルキルまたは環状アミノアルキルから選ばれる少なくとも1個を有していてもよいアリール、アラルキルまたはヘテロアリールを、R<sup>4</sup>は水素またはアルキルを、Xは酸素または硫黄を、x、y、zはそれぞれ0または1~3の整